孤食に対する印象とジェンダーステレオタイプの関係

藤井　明日香

近年、一人で娯楽施設に行く、一人で食事をするといった「おひとりさま」行動をポジティブなものと捉え、おひとりさま行動を促進するサービスが増加している。しかし一方で、「一人で過ごすことに不安や恐怖を感じる」というひとりぼっち恐怖が若者の間で広がっている。この２つの現象を踏まえ、本研究では一人行動の中から一人で食事をする、いわゆる孤食に絞り、実際に世間が一人行動に対して抱く印象を調査することを目的とした。

これまでの研究では一人行動に抵抗を感じやすいのは女性であるとされ、その背景には「女性の一人行動はおかしい」という社会通念の存在が指摘されていることから、孤食に対する印象と性別及び個人の持つジェンダーステレオタイプとの関係についても併せて検討を行った。また、孤食に対する印象を尋ねる上で、ひとりぼっち恐怖は他者に視線に喚起されることを考慮し、自分が他者の孤食に対して抱く印象と他者が自分の孤食に対して抱くであろう印象を尋ねる項目を設定した。本研究の仮説は、「女性は男性よりも孤食に対してネガティブな印象を抱く」とする仮説①、「自分が他者の孤食に対して抱く印象より他者が自分の孤食に対して抱くであろう印象の方がネガティブである」とする仮説②、「ジェンダーステレオタイプを強く持っている人は、孤食(特に女性の孤食)に対してよりネガティブな印象を抱く」とする仮説③の３つであった。

本調査はGoogleフォームを用いてネット調査を行った。参加者には調査への同意を得た上で、フェイス項目と全５問から構成された質問への回答を求めた。問１は「同性の他者」の孤食に対する印象、問２は「異性の他者」の孤食に対する印象、問３は他者が自分自身の孤食に対して抱くであろう印象、問４は個人の持つジェンダーステレオタイプの認知度、問５は回答者自身の孤食の経験について尋ねた。

調査の結果、孤食をしている対象に関係なく、孤食に対する印象は女性の方がポジティブな評価をしていたため、仮説①は支持されなかった。自分が他者の孤食に対して抱く印象より自分の孤食に対して他者が抱くであろう印象の方がネガティブだと評価していたことから、仮説②は支持された。また、本調査において個人の持つジェンダーステレオタイプの高低間による孤食の印象に有意な差が認められなかったことから、仮説③は支持されなかった。これは「おひとりさま」の浸透と、それに伴い「女性の一人行動はおかしい」という社会通念が廃れつつあることが考えられる。

課題として、孤食に対する印象と関連する個人的要因のさらなる検討が第一に挙げられる。また、一人行動に対して抱く印象だけでなく、そのような印象を抱く理由や自分自身が一人行動をする際の心情等も掘り下げて調査をする必要があるだろう。(社会心理学)